

# 2020中期経営計画【20中計】

(2020年度～2022年度)

---

2020年4月28日



## ■ 2017中期経営計画(17中計)の振り返り

### 17中計遂行状況

- 事業環境の変化もあり、重点活動方針及びそれに基づく各施策の実行が進んでいない
- FGSS\*用ポンプの受注見込の変化、工場再構築遅延による生産能力増強が出来なかった事等により、2020年度目標達成が難しい
- 現在の事業環境に合った新たな中期経営計画の立案が必要

#### 17中計数値計画

	2018年度	2020年度
売上高	63億円	75億円
純利益	3.5億円	5億円
ROE	5.5%	7.5%

#### 17中計遂行状況

	2018年度 実績	2019年度 実績
売上高	54億円	64億円
純利益	1.6億円	2.5億円
ROE	2.7%	4.2%

20中計  
へ移行

\* FGSS: 船用エンジン燃料ガス供給設備

## ■ 事業環境認識

### 政府主導の水素社会実現へ向けた取組

- 水素社会実現に向けた取り組みの概算要求の増加(2020年 807億円)
- 水素ステーション設置目標:2020年度160ヶ所、2030年度900ヶ所
- 水素ステーション圧縮機の価格低減目標:2025年までに0.5億円

### 混迷する世界経済

- 新型コロナ拡大の影響によるリーマンショックを上回る世界経済の悪化
- 原油価格の下落
- インバウンド減少による景気低迷

### 厳しさを増す市場環境

- 高騰する材料価格
- 同業他社との価格競争の激化
- 世界経済の不透明感による設備投資の抑制

# ■2020中期経営計画(20中計)

## 2022年のありたい姿

1. 高圧圧縮をコア技術とした技術開発・高効率化・改善設計を継続的に進め、強化した「加地テックブランド」により事業・サービス領域を拡大している。
2. 製品ライフサイクルサービスの事業モデルを確立し、営業活動を強力に推進し業績を伸ばしている
3. 社員1人ひとりが向上心を持って行動すると共に、新たな仕組みで技術技能伝承・人材育成に取り組んでいる

### 戦略の柱①

プラント市場・産業ガス市場での営業活動強化による受注拡大

### 戦略の柱②

PETボトル成形用圧縮機市場での標準仕様機の販売拡大

### 戦略の柱③

水素市場での新技術開発による市場優位性の維持向上

共通戦略

経営基盤強化

## 戦略の柱①

### プラント市場・産業ガス市場での営業活動強化による受注拡大

お客様の要望にお応えし満足いただける製品とソリューションサービスを提供する

- お客様の要望を踏まえた営業活動の推進
- 日韓EPC以外の新しい地域へ営業活動領域を拡大
- 顧客密着型営業の推進  
定期的な訪問を行い、困りごとを解決する  
方法を確立し信頼関係を構築する
- 長期メンテナンス契約の提供
- 過去データを分析、見える化し適格な情報提供、提案が行える体制を整える
- 既設機の価値増加につながるソリューションサービスの提供

## 戦略の柱②

# PETボトル成形用圧縮機市場での標準仕様機の販売拡大

### 市場ニーズに合致した 商品を提供する（本体）

- 市場ニーズを正確に掴む営業活動の展開
- 市場に受け入れられる標準仕様での製品の提供

### お客様の要望にお応えする 販売形態を提供する（AS）

- お客様の要望を踏まえたWin-Winとなる販売形態の創出
- 他社との協業を検討
- 既設機の価値増加につながるソリューションサービスを提供する

### 戦略の柱③

## 水素市場での新技術開発による市場優位性の維持向上

#### FCV用水素ステーション 向け新型圧縮機を市場 投入する

- ▶ 新型機投入による国内  
トップシェアの維持向  
上

#### 市場ニーズに基づく水素 充填用ラインナップ製品 を提供する (水素サプライチェーン)

- ▶ 水素社会拡大による  
水素出荷用圧縮機の  
受注活動を強化する。
- ▶ 水素充填用ラインナッ  
プの見直し
- ▶ 海外でのパッケージ  
ング可能な顧客への  
本体販売

#### メンテナンス計画に基づ く適切なアフターサービ スを提供する

- ▶ 水素ST用圧縮機のメ  
ンテナンス計画に基  
づくAS営業の展開
- ▶ 水素ST用圧縮機のメ  
ンテナンス計画通り  
出来る体制を整える

生産体制強化への取組

戦略①

設計の生産性向上

戦略④

購入・外注品の  
調達力強化

戦略②

部品の内製化と  
共通化推進

戦略⑤

アフターサービスにおける  
国内外の協力会社充実

戦略③

工場の生産性向上

戦略⑥

不適合の削減



## 経営基盤強化への取組

### ➤ 研究開発推進

2022年度開発費  
2億円

### ➤ 設備投資推進

2020年度～2022年度  
3カ年設備投資

建	物	26億円
機	械装置他	13億円
合	計	39億円

### ➤ 業務改善活動

- 基幹システム更新及び業務フローの刷新

### ➤ 賃金・評価制度の改革

- 新賃金制度の見直し他

### ➤ 人材育成強化と教育制度改革

- 職種別専門教育制度の構築他

## 2020中期経営計画 数値目標

### 2020中期計 数値目標

### 2022年度

売上高 65億円

営業利益 6億円

純利益 4億円

ROE 6%

#### 【備考】

「2020中期経営計画」期間中に、生産能力増強と生産効率化を図るために工場再構築(総合組立工場の新設)を行います。その新工場完成後の操業開始は2022年夏の予定で、設備投資の効果としては2023年から始まる次期中期経営計画の経営指標に反映する計画です。

本資料にて開示されているデータおよび将来予測は、本資料の発表日現在の判断や、入手可能な情報に基づくものであり、種々の要因により変化する可能性があります。したがい、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。